

2018年2月中旬予定

## エリー・フォール映画論集 1920-1937

編訳：須藤健太郎

ISBN978-4-908435-09-6 C0074 四六判並製 本体2800円 278頁

## エリー・フォールによる伝説の映画論、待望の翻訳。

———当初は、多くの者が映画を演劇の派生と見なし、また他の者はあるいは音楽と、あるいは造形芸術一般と結びつけた。私は、映画を造形芸術に連ねる三番目の立場だった。むろん私はいまでも、〈映画〉は視覚を通してやってきたわけで、造形芸術について知ることが、映画の理解へともっとも巧みにと考えている。しかしいわば、それだけの話である。

映画は絵画ではない。彫刻でもない。建築でもない。ダンスでもない。音楽でもない。文学でもない。演劇でもない。写真でもない。映画は単純に、映画なのである。

(本書「映画神秘主義序説」より)

## 目次

## I. 映画の発見

(ルビ：シネプラスティック)映画造形について

## II. 芸術・文化・文明

機械主義の美学  
ティントレットの予感  
映画神秘主義序説  
映画の知的役割

## III. 映画作家のかたわらで

シャルロ礼賛  
アベル・ガンス『ナポレオン』のプレミア上映に寄せて  
三面スクリーンの発見

アベル・ガンスの著書『プリズム』に寄せて

S・M・エイゼンシュテインと未来の映画

戦争映画と平和主義

生粋の映画作家—『アタラント号』の作者ジャン・ヴィゴ  
イタリアの映画小屋

## IV. 講演録から

写真展《社会生活のドキュメント》

スペイン内戦に関する記録映画

映画は普遍言語である

シネプラスティックとその彼方——訳者後記にかえて

人名・映画作品名索引

## ●著者略歴

エリー・フォール Élie Faure, 1873-1937.

フランスの評論家・美術史家。南西部サント＝フォワ＝ラ＝グランドに生まれる。高校進学にともないパリに上京し、アンリ4世高校に通う。ルーヴル美術館を足繁く訪れ、教師アンリ・ベルクソンの薫陶を受けた高校時代は、その後の人生を決定づけた。医学の道に進み、1899年に医学博士号を取得するも、1902年ごろより並行して美術批評の執筆を始める。1903年から1908年まで民衆大学〈ラ・フラテルネル〉で美術史を講じ、1909年、『美術史』第1巻となる『古代美術』を刊行。『美術史』はその後『中世美術』(1912)、『ルネサンス美術』(1914)、『近代美術』(1921)と続き、全4巻を数える。また、生物学者ジャン＝バティスト・ラマルクや社会学者オーギュスト・コントの方法論を参考にしつつ、自らの「美術史」の総決算として『形態の精神』(1927)を書き上げた。生涯を通じて多くの著作を発表し、狭義の美術にかぎらぬ様々な領域を論じた。邦訳で読めるものに『美術史』(全7巻、星塾守之ほか訳、国書刊行会、2002-2010)、『約束の地を見つめて』(古田幸男訳、法政大学出版局、1973)がある。

## ●編訳者略歴

須藤健太郎(すどう・けんたろう)

1980年生まれ。パリ第3大学大学院博士課程修了。博士(映画学)。

現在、明治学院大学ほかにて非常勤講師を務める。訳書に、ニコル・ブルネーズ『映画の前衛とは何か』(現代思潮新社、2012)、國分功一郎監修『ジル・ドゥルーズの「アベセデー」』(共訳、KADOKAWA、DVD+ブックレット、2015)などがある。

▶ご注文はツバメ出版流通まで

FAX: 03-3721-1922

TEL: 03-6715-6121

http://tsubamebook.com  
mail: info@tsubamebook.com

貴店名 (番線印)	新刊 ソリレス書店		返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
	冊	エリー・フォール映画論集 1920-1937 編訳：須藤健太郎	
ご担当： 様	ISBN978-4-908435-09-6 C0074 四六判並製 本体2800円 278頁		